

2020年5月30日

経済地理学会会長  
松橋 公治 殿

経済地理学会論文賞選考委員会  
委員長 千葉 昭彦

### 第5回経済地理学会論文賞 受賞候補者の推薦

経済地理学会論文賞選考委員会は、経済地理学会著作賞内規にもとづき、以下の通り候補者を評議会に推薦することを決定致しましたので、ここにご通知申し上げます。

#### 選考結果

候補者名：遠藤貴美子

候補著作：「東京を中心とするニット製衣服産業の生産システム」(第65巻第2号)

### 第5回 経済地理学会 論文賞 審査結果報告

第5回経済地理学会論文賞選考委員会においては、審査対象となった論文の中で第65巻第2号に掲載された遠藤貴美子氏の「東京を中心とするニット製衣服産業の生産システム」を最優秀作として選出したことを報告します。

ニット産業に関してはこれまでもその生産構造に関して少なくない調査・研究がみられます。とりわけ東京における生産構造に関しては詳細な調査がなされてきました。ただ、その多くはバブル経済以前の時期を対象としています。今回の対象論文は、ニット産業のその後の生産構造の変化と東京での産業集積の変化について詳細な調査をもとに検討しています。生産構造に関して、以前は東京内で完結していましたが、今日では東京では主として製品の企画やサンプルの作成が行われている一方、生産工程は地方生産地、さらには東アジアに工場を立地展開させて地域的な分業関係を形成していることを調査対象企業への聞き取りから明らかにしています。多くの場合、このような変化に対して工場の海外展開などとの関連に目が向けられてきたのですが、対象論文では東京の「司令塔」としての役割に注目し、それが成立する地域的条件として暗黙知の共有や意思決定の迅速性、取引費用の削減などと言った外部性が指摘されています。このような地域的条件にもとづいて、ファッション製品の変化の速い市場に対応していることを企業調査にもとづいて示しています。

以上のように対象論文はニット産業の生産構造のバブル経済以前から今日への変化を明らかにしており、そのような点が高く評価される所となりました。また、このことは今日の東京の役割の一端を明らかにすると同時に、今日の製造業の生産構造の一端も明らかにしたものと高く評価することができるものです。

第5回経済地理学会論文賞選考委員会

千葉昭彦(委員長)、初澤敏生、山内昌和、武者忠彦、北川博史、田村大樹